

Round Table Discussion

エクリズマブ治療を 総括する



(2018年12月開催)

司会

(敬称略, 50音順)

西村 純一

大阪大学大学院医学系研究科
血液・腫瘍内科学講師

出席者

川口 辰哉

熊本保健科学大学保健科学部医学検査学科教授/
熊本大学医学部血液・膠原病・感染症内科客員教授

二宮 治彦

筑波大学医学医療系臨床医学域医療科学教授

宮坂 尚幸

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
生殖機能協関係分野教授

PNHの患者様 3名

発作性夜間ヘモグロビン尿症 (PNH) は補体活性化による血管内溶血とそれに伴うヘモグロビン尿, 骨髄不全, 血栓症を主徴とする進行性の血液疾患であり, 本邦では2010年に補体タンパク質C5を標的とする遺伝子組換えヒト化モノクローナル抗体エクリズマブが承認された。発売から8年, 製造販売後調査の中間解析およびQOL解析の結果が報告され, 血管内溶血および血栓症, QOL等に対する有効性が示されるとともに, エクリズマブ不応例や造血不全合併例, 腎性貧血, 血管外溶血, 髄膜炎菌感染症などの課題も明らかになりつつある。本座談会では専門医4名とPNH患者さん3名をお招きし, エクリズマブ治療のこれまでとこれからについてディスカッションいただいた。